

## 奥村直士の「資源エネルギーから読む国際情勢」

(No 2、2014.09.19)

嘗て、ソ連邦崩壊に向けて、旧ソ連が依存する原油価格の引き下げが行われたと言われて  
います。これは、嘗てのアクナキャリー協定を思い出させます。崩壊後は、原油価格の引上  
げが行われ、原油価格引き下げで大打撃を受けた中東湾岸産油国の経済が、復活しました。  
再度の引上げ約束が無ければ、中東産油国は増産に協力しなかったでしょう。大增産すれば、  
原油・天然ガス価格は暴落します。

現在も、ロシア経済は原油・天然ガスの輸出に依存していますが、先の G7 前後に、原油  
生産資機材の欧米からの輸出を禁止したようです。私も、以前、アゼルバイジャンの石油資  
機材の、ソ連規格から米国規格 American Petroleum Institute ; API への切り替えに参画  
したことがありましたが、今や、旧東側資源産業の資機材は API 規格となりました。した  
がって、日欧米からの油田開発資機材輸入が無ければ、ロシアでの中期的に原油・天然ガス  
の安定生産継続は、極めて困難な状況となると思います。

例えば、我が国鉄鋼業界製の高性能鋼管の輸出が止まれば、ガस्पロム等のロシア資源産  
業は、大打撃を被ります。ロシアのみ対象か、カザフスタンや GUAM まで含むのか、複雑  
な判断となっているかも知れません。勿論、輸出減は、我が国鉄鋼業界にも、大打撃とな  
ります。

現在、ロシアは、欧米規格の石油開発輸送資機材を、中国からどの程度輸入出来るかとい  
う瀬戸際に来ていると思います。現時点でロシアと中国間、更には、米国と中国間で、ど  
の様な合意が出来ているか、注視する必要があると思います。

中東産油国には資金が潤沢にありますから、イスラム国からの防衛との引き換えで、どこ  
まで協調増産による原油価格引下げに参加するか、協議が行われていることでしょう。シ  
リア情勢が、一方に決定的終息となることは、どの国も望んでいない様な、気もしています。

既に、原油価格が下がり始めていることは、ご承知の通りです。我が国としては、天然ガ  
ス (LNG) 価格や原油価格が下がり、貿易収支における円安の影響が、緩和されること  
が、望ましいのではないのでしょうか？

尚、スコットランドの独立を巡る選挙結果が、他国間の国境線問題に、影響があるかも知  
れません。注目すべきことと思います。